

臨床研究「乳癌の新規治療ターゲット分子の確立を目指す糖タンパク質の探索研究」について

筑波大学附属病院乳腺甲状腺内分泌外科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

乳癌には、ホルモン療法や分子標的医薬などの治療の適応があるものと、こうした治療の適応がないものがあります。特に後者は予後不良ですが、分子学的特徴についての報告は少なく未だ研究段階にあります。本研究では、筑波大学医学医療系実験病理学、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）と協力し、乳癌に特異的な糖タンパク質の特徴を明らかにすることを目的としています。

② 研究対象者

筑波大学附属病院で2012年以降に乳癌の手術を受けられた患者様で、

- ・「筑波大学附属病院で診療を受けられる患者さんへ」（2012年12月～2016年8月）あるいは、
- ・「診療で採取した組織、血液をつくばヒト組織バイオバンクセンターで保管することについてのお願い」（2016年9月～）により検体利用を同意していただいている患者様

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～ 2027年3月31日まで

④ 研究の方法

生検や手術で得られた組織や血液の残余検体を用いて、がんの特異的なタンパク質の糖鎖変化を検索します。検出された糖タンパク質に対して、それらを認識する抗体やレクチンなどを用いた組織染色や電子顕微鏡による観察を行います。また、糖鎖修飾に関わる酵素や癌免疫などに関わる分子の遺伝子発現を調べるため、組織サンプルからリボ核酸（RNA）を抽出して網羅的に解析することを行います。研究の成果は、個人情報特定できないように匿名化した上で、学会発表や学術雑誌及びデータベース上で公表することがあります。

⑤ 試料・情報の項目

診療情報（年齢、診断時 Stage、術前の化学療法や放射線療法などの有無）や、すでに保存してある血液、生検・手術で得られた組織の残余検体を使用させていただきます。検体の個人情報は、患者さまを直ちに判別できないように加工して管理し、個人情報の漏洩がないようプライバシーの保護には最大限の注意を払います。

⑥ 試料・情報の第三者への提供について

検体は初めに匿名化された状態で提供されます。研究は主に筑波大学実験病理学で行い、協力機関である産総研で糖鎖解析が行われます。初めの段階で匿名化されるため、個人情報の特定はできない仕組みとなっています。また、今回の研究で行う遺伝子検索は、リボ核酸（RNA）発現の網羅的解析であり、染色体異常などの遺伝情報が漏洩する可能性はありません。

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者  
筑波大学 医学医療系 実験病理学 川西邦夫

⑧ 研究機関名および研究責任者名

1. 筑波大学 医学医療系 実験病理学 川西邦夫
2. 筑波大学 乳腺甲状腺内分泌外科 坂東裕子
3. 産業技術総合研究所 細胞分子工学研究部門 分子細胞マルチオミクス研究グループ 佐藤隆

⑨ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学 医学医療系 実験病理学

住所：〒305-8576 茨城県つくば市天王台 1-1-1

本研究の責任医師：川西邦夫（実験病理学・助教）

連絡先：電話：029-853-3944（筑波大学 医学医療系 実験病理学、平日 9:00～17:00）